



自社農場での農作業やJA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施。

基本情報

- 所在地：北海道札幌市
- 団体名：株式会社ファーストマインド 多機能型事業所ぴ〜か〜ぶ〜WORKS
- 選定表彰：－
- 主力商品：ミニトマト、キウイモ、ピーマンなどの野菜約20品目、乾燥ミニトマト、キウイモチップスなどの加工食品



自社農場の野菜



自社加工食品

- 取得認証等：－

取組の概要

- 児童発達支援等の卒業生の就労先として、農業に参入し、自社農場における農作業のほか、JAや地元企業と連携した農作業受託、水路や農道の掃除、高齢者宅の草刈りや除雪作業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。
- 就労継続支援A型事業所における施設外就労では、農作業や夏季限定野菜加工場のほか通年で就労できる食品仕分け作業も確保。就労継続支援B型事業所では除草などの作業を受託。
- 農福連携の取り組みに興味を持った、地域外の飲食店や不動産業者、スキー場などからも農産物販売等の申し出があり、販路が拡大。



施設外での農作業



除雪作業風景

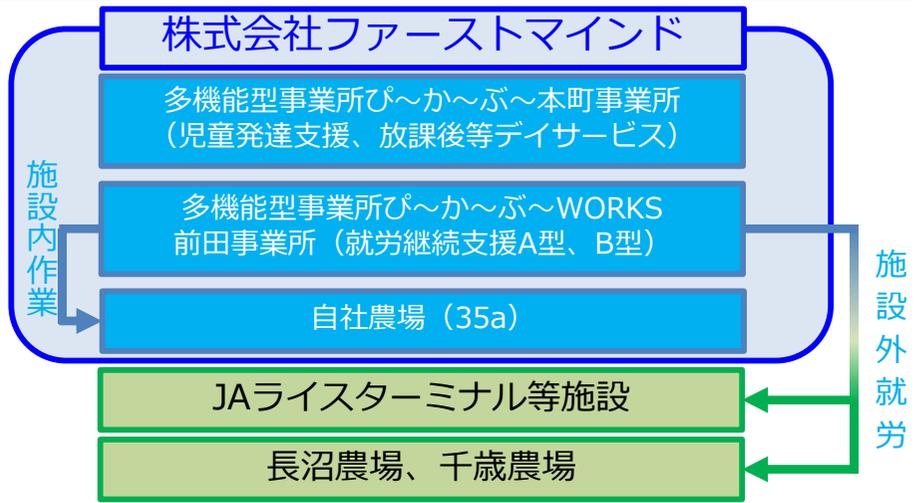


野菜の出張販売



施設利用者メンバー

体制図



取組の成果

- 就労継続支援A型事業所では、責任感や、やりがいを持てるように、リーダー制度や作業スキルにおけるステップアップ制度を設けて賃金に反映。
- 就労継続支援A型事業所利用者20名の平均賃金月額は10～15万円で、北海道平均を上回る給与を実現。これまで2名が障害者枠の一般就労に移行。
- 就労継続支援B型事業所の利用者18名の平均工賃月額も約3万円と北海道平均を上回っており、4～6万円の工賃を受け取る利用者も増加。

所在地▶北海道札幌市手稲区前田7条10丁目6-12
 連絡先▶TEL:011-215-7493 E-mail:pikabu.maeda@gmail.com
 ウェブサイト▶https://www.pi-ka-bu.jp/

【取組のプロセス】

令和元年

高齢農家から農地
借り受けの依頼

きっかけ

児童発達支援及び放課後等デイサービスを卒業した利用者の就労先を確保するため、就労継続支援事業所を開設

令和2年

事業を安定的に継続
していくために、施設外就労先を探す

自社農場の農地拡大

- 営農困難となった高齢者から、農地（35a）を借り受け。
- 「キクイモ」及び「加工用ミニトマト」の栽培を拡大し賃金・工賃の向上を図る。



自社農場の風景

令和3年

規格外野菜の活用と
デイサービスで提供
する食材調達を模索

施設外就労先を開拓

- 利用者の就労安定化や賃金・工賃向上のため、農作業ができる施設外就労先を探す。
- JA関連施設やセコマグループの株式会社北栄ファームと契約し、就労の安定化を実現。



施設外就労の様子

令和5年

NPO法人フードバンクイコロさっぽろとの連携開始

- 事業所で使用する食材をフードバンクから、事業所で収穫した規格外野菜等をフードバンクへと相互提供する関係を構築。
- 生産した野菜の行き先が見えるため、利用者のやりがいにつながっている。



フードバンクへ野菜提供

今後の
展望

もっと活躍の場を

- 「福」の拡大として、子ども食堂を開設し、地域との繋がりを拡大。
- キッチンカーを購入し、独自イベントや他地域を含めた様々なイベントに参加することで、利用者の賃金・工賃向上を目指す。
- 就労継続支援A型事業所から一般就労へ繋げるため、連携企業の増加を図る。



イベント出店の様子



家族経営の農家が農福連携の取組を行うことで、栽培面積の拡大、労働力不足の改善、収益の向上などを実現し、農業経営が安定化。

基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：ひらまつファーム
- 選定表彰：－
- 主力商品：ミニトマト、レタス、とうもろこし等
- 取得認証等：認定農業者



ひらまつファームとスマイルベリーのメンバー

取組の概要

- 地域の福祉事業所、NPO法人スマイルベリー、多機能型事業所ひだまりのみちへ野菜の栽培から収穫に至るまでの農作業を委託。
- 新たな治具の開発、各作業ごとのマニュアル作成など、環境を少し整えることで作業効率が飛躍的に改善。
- 農場での作業を障害者の個別支援計画に明確に位置付けることで、障害者一人ひとりの成長につながるよう支援。
- 農園を近隣の幼稚園や福祉事業所の利用者にも開放し、収穫体験を行うほか、NPO法人スマイルベリーが所有するカフェや加工場へ生産物を提供するなど、多方面での連携を実施。



定植作業の治具

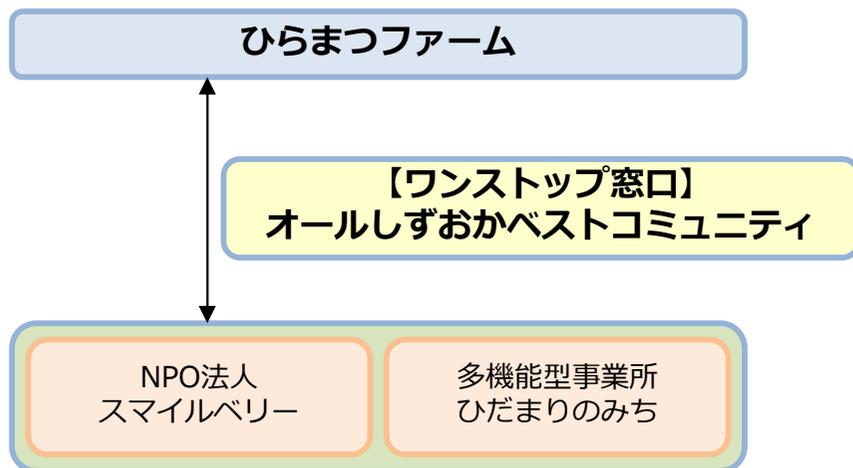


定植機での作業風景



ミニトマトの脇芽取り作業

体制図



取組の成果

- 農福連携に取り組むことで収益向上・栽培面積拡大につながると同時に時間的な余裕も生まれた。
耕作面積：令和3年 1.5ha → 令和4年 1.8ha
売上高：令和3年 1,300万円 → 令和4年 1,560万円
- 受入障害者数は2年間で13名となっており、今後も受入人数を増加させる予定。
- 治具などを導入することにより、1名の定植時間が220本/時間から、280本/時間となるなど、作業効率が大幅に改善。

所在地 ▶ 静岡県浜松市北区新原2040-3

連絡先 ▶ TEL:053-582-7272 E-mail:hf-10ma10@outlook.com

ウェブサイト ▶ <https://fresh-yasai.com/>

【取組のプロセス】

令和3年

きっかけ

新型コロナウイルスや資材費の高騰、局地的豪雨の影響など、農業経営に行き詰まり、県西部農林事務所に相談したところ、農福連携の提案を受けたことから障害者の受け入れを開始

新型コロナウイルス、資材高騰、局地的豪雨などの影響

農福連携の取組を開始したことで、農業経営が改善され、耕作面積が増加し、これに伴って受け入れる障害者の人数も増加

農福連携の取組

- 家族経営で行き詰まっていたが、農福連携に取り組むことで、農業経営の改善に成功。
- 栽培面積がミニトマト1.5倍、とうもろこし1.3倍、レタス1.5倍に拡大。
- 栽培面積が増加したことで、委託先の福祉事業所も増加。



ミニトマトの脇芽取り

地域との連携

- 地元の教育機関とも連携し、今後農業を担っていく学生に農福連携の現状、課題を知ってもらう機会を創出。
- 今までは廃棄していたミニトマトを、連携先のNPO法人スマイルベリーが引き取りカフェで提供するキッシュのトマトソースに活用。



廃棄トマトを利用したキッシュ

令和5年

事例発表

- 令和5年2月に静岡県が主催した「農福連携シンポジウム」において、「0からの農福連携」と題して農福連携の取組を発表。



シンポジウムでの発表

今後の展望

農福連携の広がり

- 自身の成功により、地域で新たに農福連携を開始した事例があり、農福連携コーディネーターが順番待ちとなるほど地域で農福連携への関心が高まっている。自身の農業経営を見直すきっかけとなった農福連携が、地域にもっと広まり、農業経営に行き詰っている農業者の助けとなる存在を目指す。



レタスの収穫体験



農業分野で障害者が活躍できる場の創出を目指し、直接雇用型の農福連携事業に取り組み、障害者のいちご栽培技能及びコミュニケーション能力を高める。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：全国農業協同組合連合会
岐阜県本部
- 選定表彰：-
- 主力商品：いちご（品種：美濃娘）
- 取得認証等：-



収穫の様子



美濃娘

取組の概要

- 通年でいちご栽培に従事する障害者を直接雇用。いちごは岐阜県ブランドいちご「美濃娘」を栽培し、地産地消の取組に貢献。
- 参画しているぎふ農協岐阜市いちご部会の基準に基づいた栽培・防除・収穫・パック詰めを行い、部会員と同一基準で出荷を実現。
- 連携先のいちご農家で農作業実習を行い、人材育成と農家への農福連携を促進。
- 株式会社JAぎふはっぴいまるけと連携し、相互に農作業体験実習を実施。
- 特別支援学校や障害者職業センターの実習生を受入れ、いちご収穫体験を実施。



親株の定植作業

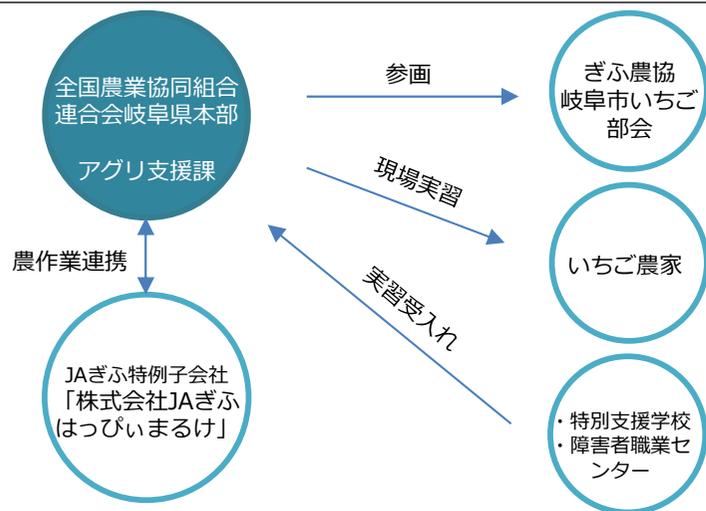


パック詰め作業



「はっぴいまるけ」との連携活動

体制図



取組の成果

- 栽培の知識・技術向上に伴い、栽培面積が5a（令和3年）から10a（令和4年）と、2倍に増加。
- 市場出荷パック数が約6,000パック（令和3年）から14,600パック（令和4年）と、2倍以上に増加。
- 農作業実習では普段と異なる環境下で作業を行うことで、自立支援と雇用創出に繋がった。また、受け入れ先の農家からも農福連携に対して前向きな意見が得られた。

所在地 ▶ 岐阜県岐阜市宇佐南4丁目13番1号

連絡先 ▶ TEL:058-214-2431 E-mail: zz_gf_agurishien@zennoh.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.zennoh.or.jp/gf/einou/noufuku.html>

【取組のプロセス】

令和3年

アグリ支援課
新設

障害者雇用に向け
た環境や受入体制
の構築

きっかけ

少子高齢化による農業分野の人手不足の解消と、SDGsの理念実現を目指し、取組を開始

障害者雇用に向けた体制づくり

- 管理者・職場適応援助者の支援スキル向上に向けて、厚生労働省認定の「企業在籍型職場適応援助者養成講習」や県認定の「岐阜県農業ジョブコーチ」育成講習を受講。

作業の見える化

- 日々の作業をホワイトボードに記入して、作業者に説明。
- 判断や精度がばらつきやすい作業（防除・芽かき等）も安心して取り組めるよう、作業確認のため一人ずつ作業動画を撮影し、口頭では伝わりにくい留意点を確認。

栽培スキルの向上

- いちご農家で農作業実習を実施し、栽培管理、収穫方法、効率的なパック詰め手法などを学習。

体調管理・メンタルケア

- 定期的に個別面談やメンタルミーティングを開き、精神状態の確認とケアを行い、安定就業に繋げている。

農福連携の普及活動

- 障害者が集荷所へいちごを持ち込み、他の農家と日常的に交流することで、農福連携への理解醸成に取り組む。
- 大手量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売することで農福連携をPR。

農家、雇用主の理解醸成と関係機関との連携

- 障害者雇用の理解促進を図るため、外部と交流する機会を増やす。
- いちご農家での作業実習を通じて、障害者のいちご栽培技能・知識向上やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、農家に障害者雇用の選択肢を広げていく。
- 県と連携した農福体験ツアーや大学との連携による収穫作業体験などの機会を作り、農福連携の取組を広める。

令和4年

ジョブコーチ支援
実施

はっぴいまるけ
と連携農作業開始

令和5年

大手量販店で
農福連携特設コー
ナーを設置

外部農作業実習

今後の
展望



全員で作業動画を確認



いちごを農家訪問し、効率的なパック詰め手法を学ぶ



量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売



行政及び関係団体と連携し、最低賃金で働けない全ての人や、生き辛さを抱えた方々（ひきこもり状態にある者、触法者など）への支援を通じ、地域の課題解決に貢献。

基本情報

- 所在地：高知県安芸市
高知県吾川郡いの町
- 団体名：一般社団法人こうち絆ファーム
多機能型事業所「TEAMあき」就労継続支援B型事業所「TEAMいの」
- 選定表彰：
 - ・令和4年度ディスカバー農山漁村の宝 中国四国地区 奨励賞
 - ・第13回地域再生大賞 優秀賞
 - ・第38回高知県地場産業大賞 高知県地場産業賞
- 主力商品：ナス、オクラ、白芽芋、冬野菜
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- こうち絆ファームは、安芸市農福連携研究会の発展形として、生きづらさを感じる人たちに通年で仕事を作るために令和元年に設立された福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。
- 事業所では、こうち絆ファーム以外に近隣の25の農家から収穫したナスやオクラの袋、箱詰めも行っており、作業者に合わせた就労体系で1箱200円の出来高制で請け負う。
- 20代～60代までの生きづらさを抱えた方々（障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等）63名が2か所の事業所で作業。
- 農閑期（7月～9月）にはハウスをユニバーサル農園として市民や関係機関に開放し、ナス狩り収穫体験を実施。特別支援学校や放課後等デイサービスの子供たちに対する食育としても貢献。



ユニバーサル農園での収穫体験 ハウス内での作業をする利用者 ナスの袋詰め作業をする利用者

体制図



取組の成果

- 生きづらさを抱えた多様な人材を受け入れ、3年間で一般就労に8名が移行し現在も定着。過去にひきこもり状態であった1名は新規就農として令和4年度から経営を開始。
- ふるさと納税の返礼品や企業からの発注が多くなるにつれ、より良い品質の良いものを提供しようと栽培管理、職員、利用者のモチベーション向上につながっていることもあり、開始した当初（令和2年）は、平均工賃月額が21,985円であったが、現在では31,286円となり、当初より約4割増加している。

所在地▶高知県安芸市本町3丁目10-35

連絡先▶TEL: 0887-37-9071 E-mail: aki@kochi-kizuna.com

ウェブサイト▶ <https://kochi-kizuna-farm.com/>

【取組のプロセス】

大阪府からIターンで農家を目指し高知県へ

平成26年

きっかけ

農業経営規模の拡大に伴い、障害のある親子を雇用したことから農福連携の取組が開始



ナスの袋詰め作業

令和元年

自社農園での生産スタート（施設園芸ナス15a）

令和2年

一般社団法人こうち絆ファームを設立

- 高知県は全国でも自殺率が高く、その対策が喫緊の課題であったことから、平成25年に高知県安芸福祉保健所が「ここから東部ネットワーク会議（自殺予防）」を立ち上げ、87の機関が連携、受け入れ先の農家として関わる。
- 自殺以外の課題にも対応できる体制を整えるため、平成30年に安芸市農福連携研究会が発足され、生きづらさを感じる人の雇用先を増やしたいとの思いから、令和元年に一般社団法人こうち絆ファームを設立。



冬野菜の種まき・苗おこし作業

自社農園の規模拡大（施設園芸ナス50a）

多様な連携をスタート

- 多機能型事業所TEAMあきを開所し、特別支援学校との連携、法務省と連携した触法者の受け入れ、高齢者通所サービス事業所との連携を開始。

高松矯正管区内の矯正施設との意見交換会スタート

令和3年

官民との農福商工連携がスタート

- 安芸市商工観光水産課が策定した安芸市中心商店街振興計画に参加し、現状の課題や地域資源の洗い出し等についてワーキンググループで検討。
- 安芸本町商店街で「軽トラマルシェ」を開催。大鍋でふるまう「ナス煮」会を開催し地域活性化に貢献。
- 厚生労働省 生活困窮者モデル事業開始（地域連携モデル）。



軽トラマルシェ ナス詰め放題

高知県伊野町の依頼により農福連携を伊野町でスタート

令和4年

県からの委託事業がスタート

- 農業者と就労継続支援事業所の農作業受委託のマッチングの支援活動。



ナスの収穫体験

令和5年

農福連携を通じて共生を目指し地域づくりに繋げる

今後の展望

更なる連携がスタート

- 伊野町との連携による就労継続支援B型事業所TEAMいの開所
- 清水寺住職より仏教界からの協力の申し出があり、自殺予防の取組の拡大として「仏福連携」をスタート。



清水寺との「仏福連携」

各地での就労継続B型事業所の開設

- 県域での水福連携の推進（令和6年度開始）。
- 室戸市との連携によるTEAMむろと設立委員会設置。
- 香美市・香南市・南国市との連携による農福連携コンソーシアム設立。

生産者の高齢化等により産地の維持・継続が懸念される中で、自社での原木椎茸栽培のほか、地域の約600軒の生産者から原木椎茸を買い取り、福祉施設に委託して乾燥椎茸等に加工する農福連携を推進することで、地域の課題解決に取り組む。

宮崎県
高千穂町

基本情報

- 所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町
- 団体名：株式会社 杉本商店
- 選定表彰：
 - 令和2年 サステナアワード 2020大賞
(農林水産省、消費者庁、環境省)
 - 令和3年 サステナアワード 2021みどりの
食料システム推進賞 (同上)
 - 令和4年 宮崎県中小企業大賞 (宮崎県)
 - 令和5年 第24回グリーン購入大賞農林水産
大臣賞 (グリーン購入ネットワーク)
- 主力商品：本格椎茸粉、椎茸どんこ等
- 取得認証等：ISO22000認証登録、宮崎県未来成長企業認証、有機JAS認証、GFPアンバサダー認定

取組の概要

- 農家の高齢化により椎茸の駒打ち等の作業負担が大きくなっていく中で、椎茸の原木栽培及び加工を福祉施設へ委託することで、障害者の所得向上が実現。現在は委託先の福祉施設が6団体7施設に拡大。
- 地域の約600軒の生産者からも原木椎茸を買い取り、地域の生産者と福祉施設を繋ぐことで、高齢農家の作業負担軽減と障害者の働く場の創出に寄与。
- 農福連携により生産された原木椎茸はサステナブルな取組として海外で高く評価され、令和5年10月時点で累計23か国へ輸出。



椎茸の駒打ち作業風景



無農薬原木栽培される椎茸

オンライン販売
(本格椎茸粉と椎茸どんこ)

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った作業分担と就労環境への配慮により、出勤率が向上し、賃金も増加している。
- こうした成果により、委託する福祉施設も拡大し、施設外就労者数の増加や輸出額の増加にも繋がっている。

	平成30年	令和5年 (見込み)
・施設外就労者数 (人)	187	604
・障害者平均工賃月額 (円)	9,692	16,856
・輸 出 額 (万円)	280	1,500

所在地 ▶ 宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井458-28

連絡先 ▶ TEL:0982-72-3456 E-mail:kazuhide@sugimoto.co

ウェブサイト ▶ <https://sugimoto.co/>

【取組のプロセス】

ものづくり補助金を活用し、設備を更新

平成29年

九州産本格椎茸粉発売、障害者支援施設2カ所目が栽培と作業をスタート

令和元年

宮崎県特用林産物輸出促進対策事業の活用

令和3年

地元小学校での食育授業開始

令和4年

県内障害者支援施設6事業所（7作業所）と協業。

特用林産物×福祉×輸出の取り組みが評価され、ノフク・アワード2023フレッシュ賞のほか、グリーン購入大賞・農林水産大臣賞も受賞

今後の展望

きっかけ

椎茸生産者の高齢化と干し椎茸の軸切作業における人材不足の中、障害者支援施設の職員から作業の依頼があったことから、農福連携の取組を開始

地域未来牽引企業の認定を受ける

- 高齢生産者の負担軽減のため 自伐による原木供給事業を開始。
- 原木を杉本商店が供給し、福祉施設が植菌から出荷までを行う全作業委託を開始。
- 将来の有機農産物需要の増加と差別化を考え、「杉本商店有機出荷者協議会」を設立。
- 世界で唯一、原木栽培椎茸でKOSHER認証（ユダヤ教の食品規定に基づいた生産プロセスが順守されていることを証明する認証制度）を取得。
- 初の海外展示会（FOODTAIPEI, BERLINFOODWEEK）へ出展し、海外市場では持続可能性が重要であることに気づく。



地域未来牽引企業認定証

年間輸出高が4,500万円を超える

- 作業量増加に伴い、新たに県内2か所の福祉施設に椎茸の軸切作業を委託。
- コロナ禍の影響でオンライン商談が中心の中、動画を活用した情報発信で輸出事業が伸長。
- サステナアワード2020大賞、農林水産技術会議事務局長賞受賞。
- パウダー製造体制を強化、アシストスーツの実証実験スタート、林野庁研修講師を開始。
- プラントベース市場への挑戦を始める。



輸出品商談会の様子

GFPアンバサダーの認証を受ける

- 全作業委託する福祉施設が3か所、一部作業を委託する福祉施設が3か所に拡大。
- ASIANCONFLUENCE（インドでの国際会議）に登壇（オンライン）。
- 持続可能な組織形成の為、「杉本商店幸せQC活動」開始。
- 海苔養殖で不要となったグラスファイバーポールを活用したアップサイクルな栽培をスタート。サステナブル☆セレクション三つ星認定。
- 在インド日本大使公邸にてイベントを開催。



GFPアンバサダー認証式

～生産者と共に、この地で働けることに感謝し、常にお客様の健康を願い、安全で使いやすい食材を開発し、提供し続ける～

- 販路拡大のために、世界最大のベジタリアン国、インドへの輸出に向けた商談を進める。
- 商品価値を高めるために、宮崎県を原木栽培椎茸における「世界最大の有機JAS拠点」とする。
- このため、現在、有機・非有機が混在している種駒を、令和12年をめどに全数有機に切り替えるとともに、有機JAS取得のための生産者講習の受講を促す。
- 上記の需要拡大とあわせて、供給拡大のための農福連携を進めていく。



関係者とともに未来を目指す